

松江市 報道提供資料

令和5年6月12日

件名

「あすチャレ！スクール」の実施について

内容

パラリンピアンが自らの体験をもとに、パラスポーツデモンストレーションや体験、講話を通じて子どもたちに「可能性に挑戦する勇気」「夢や目標を持つ力」などを伝える「あすチャレ！スクール」(主催:日本財団パラスポーツサポートセンター)を市立小・中・義務教育学校で実施します。

【講師】加藤 正(かとう ただし)氏

(ソルトレイク冬季パラリンピック日本選手団主将・長野冬季パラリンピック アイススレッジスピードレース 銀メダリスト)※経歴詳細は別紙

【スケジュール】

6月19日(月) 14:00～14:25 市長表敬訪問(場所:松江市役所新庁舎4階 市長室)

6月20日(火) 9:40～11:10 母衣小学校(3年生)

6月21日(水) 10:50～12:20 義務教育学校八束学園(6年生)

6月22日(木) 14:10～15:40 第二中学校(特別支援学級1～3年生)

6月23日(金) 9:35～11:05 佐太小学校(3～4年生)

上記のほか、大庭小学校(6月19日)でも実施しますが取材はご遠慮ください。

【取材】学校での取材を希望される場合は、あらかじめ下記までご連絡ください。

【問い合わせ】文化スポーツ部スポーツ課 担当:錦織・三原 電話:0852-55-5296

(開催実績)平成28～令和4年度に、市内延べ18校(小学校14、中学校4)で実施。

令和2～3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施なし。

～ あすチャレ！スクール事業概要 ～

【主催】 公益財団法人 日本財団パラスポーツサポートセンター

【実施内容】 90分を基本として、以下の内容で実施します。

① パラスポーツデモンステーション

パラアスリートのハイパフォーマンスを生で見ることで迫力やスキルを肌で感じ、「すごい」「かっこいい」を体感しながら、障がいに対する意識の転換を図ります。「応援」することにも着目し、ただプレーを見るだけでなく、応援することの意義、効果、力を実感することができます。

② パラスポーツ体験

パラスポーツを体験することで「楽しさ」「難しさ」を頭で理解するのではなく、体を使って理解することができます。ミニゲームを行う児童生徒と、それを応援する参加者全員に一体感が生まれ、難しいことにも一生懸命取り組むことの大切さを体感することができます。

③ 講話

講師がパラスポーツを通じて得た体験・教訓を交えながら、「4つの学び※」について参加者と考えます。講師とコミュニケーションを取ることで、障がいに対する理解や、新たな気づきを与えます。

※「4つの学び」・ ・ <他者のことを自分ごととして考える心> <障がいとはなにか？>
<可能性に挑戦する勇気> <夢や目標を持つ力>

【講師】加藤 正（かとう ただし）氏

ソルトレイク冬季パラリンピック日本選手団主将
長野冬季パラリンピック【アイススレッジスピードレース】
500m・1000m 銀メダル獲得
1500m 銅メダル獲得



1988年ソウルパラリンピックに競泳で出場。1994年リレハンメル冬季パラリンピックでは氷上競技「アイススレッジスピードレース」に日本人初の選手として出場。1998年長野冬季パラリンピックで、同競技で500mと1000m銀メダル、1500m銅メダル獲得。また、長野からはアイススレッジホッケー（現パラアイスホッケー）にも出場し、以後、2002年ソルトレイクシティ、2006年トリノにアイススレッジホッケーで連続出場。車いすバスケットボール選手としては、全国障害者体育大会（国体）へ長野県チームとして7回出場。現在も、現役アスリートとしてマルチに活動している。

あすチャレ！スクール メディア資料

「あすチャレ！スクール」のご取材をいただきありがとうございます。

本授業に関して記事、番組等でご紹介いただけます際には

「あすチャレ！スクール」(主催:日本財団パラスポーツサポートセンター)とコメントまたはクレジット記載をお願いいたします。

本授業を含む「あすチャレ！」は、小・中・高・特別支援学校向け教育プログラム、企業・団体、自治体、大学向けの研修プログラムがあり、子どもから大人まで全国で活用されています。

なお、2023年度は以下の協賛社とともに実施しています。

【GOLD PARTNER】株式会社ブリヂストン、株式会社JTB

【OFFICIAL PARTNER】中外製薬株式会社、日本電気株式会社、株式会社アシックス、日本航空株式会社

※「あすチャレ！」教育・研修プログラム 2023年度の協賛については以下リリースをご参照ください。

(<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000119.000023445.html>)

小・中・高・特別支援学校向け教育プログラム「あすチャレ！スクール」とは

日本財団パラスポーツサポートセンター(パラサポ)が主催する「あすチャレ！スクール」は、パラアスリートを中心とした障がい当事者講師から共生社会を学ぶ、小・中・高・特別支援学校向けパラスポーツ体験型出前授業。講師との対話を通じ、児童・生徒1人ひとりが「自分には何ができるか？」を考える機会を創出します。

パラスポーツを通じ共生社会への気づきや学びの機会を提供する教育・研修プログラム「あすチャレ！(明日へのチャレンジ)」のひとつです。

2016年4月に開始した本プログラムは、2023年3月末までに全国47都道府県で累計1,717回・約22万人の児童生徒が参加しています。

■ 実績	2016年度: 116回 (18,575人)	2017年度: 263回 (42,741人)
	2018年度: 296回 (46,253人)	2019年度: 287回 (41,889人)
	2020年度: 134回 (12,559人)	2021年度: 277回 (23,960人)
	2022年度: 344回 (30,537人)	

特徴① 効果的な3部構成のプログラム！

パラスポーツデモンストレーション⇒パラスポーツ体験⇒講話の流れで実施することで、初めにパラスポーツの「すごさ」「かっこよさ」を体感でき、「障がい」に対する意識の転換を図り、「伝えたい気づきと学び」をより効果的に促すことができます。



《パラスポーツデモンストレーション》

パラアスリートのハイパフォーマンスを生で見ることで迫力やスキルを肌で感じ、「すごい」「かっこいい」を体験しながら、障がいに対する意識の転換を図ります。



《体験》

パラスポーツを体験することで「楽しさ」「難しさ」を頭で理解するのではなく、体を使って理解することができます。



《講話》

講師がパラスポーツを通じて得た経験・教訓を交えながら、「4つの学び」について子どもたちと一緒に考えます。

特徴② パラスリートが講師！



根木 慎志(ねぎ しんじ)

【車いすバスケットボールプログラム】
シドニーパラリンピック男子車いすバスケットボール日本代表キャプテン
日本財団パラスポーツサポートセンター
「あすチャレ！」プロジェクトディレクター



加藤 正(かとう ただし)

【車いすバスケットボールプログラム】
パラリンピック夏冬合わせて5回出場の
マルチアスリート



神保 康広(じんぼ やすひろ)

【車いすバスケットボールプログラム】
パラリンピック男子車いすバスケットボール元日本代表(4大会出場)



橘 貴啓(たちばな たかひろ)

【車いすバスケットボールプログラム】
車いすバスケットボールチーム
「NO EXCUSE」現役プレーヤー



永尾 嘉章(ながお よしふみ)

【車いす陸上プログラム】
パラリンピック日本人最多となる7大会出場
アテネパラリンピック日本選手団主将
4×400m(T53/54クラス)銅メダル獲得



高田 朋枝(たかだ ともえ)

【ゴールボールプログラム】
北京パラリンピック女子ゴールボール
日本代表(7位入賞)
インドネシア2018アジアパラ競技大会 金メダル

特徴③ 伝えたい4つの学び！

他者のことを

自分ごととして考える心

他者が抱える問題を自分のこと、同じ仲間のこととして捉える力を持つ大切さを学ぶことができます。

障がいとはなにか？

「障がい」とは「障がい者自身」が持つものではなく、社会に存在するものとする考え方や多様性を認め合うことの大切さを学ぶことができます。

可能性に挑戦する勇気

「障がい」の有無に関係なく、すべての人が個々の可能性を持っていることに気づき、勇気を持って挑戦することの素晴らしさを学ぶことができます。

「夢」や「目標」を持つ力

パラアスリートがアスリート生活を通じて経験してきた夢や目標を持つ価値と重要性について直接話を聞くことで肌で感じることができます。

全国での実施実績や参加した児童生徒、教員の声はこちら(QRコード参照)



プログラム概要

実施地域: 全国

実施対象: 小・中・高・特別支援学校の児童生徒

実施人数: 1学年～全校生徒(応相談)

実施時間: 90分

実施費用: 30,000円/回(交通費・消費税等額含)

募集期間: 年間4回

第1次募集 2023年1月30日(月)～2月10日(金) (2023年4月～6月実施分)

第2次募集 2023年4月10日(月)～4月21日(金) (2023年7月～9月実施分)

第3次募集 2023年7月3日(月)～7月14日(金) (2023年10月～12月実施分)

第4次募集 2023年10月2日(月)～10月13日(金) (2024年1月～3月実施分)

D&I社会実現に向けた教育・研修プログラム「あすチャレ！」

パラサポはダイバーシティ&インクルージョン(D&I)社会の実現に向け小・中・高・特別支援学校向けの教育プログラム、企業・団体、自治体や大学で活用されている研修プログラムを提供しています。

小・中・高・特別支援学校
向け教育プログラム

小・中・高・特別支援学校
向け教育プログラム

企業・団体・自治体・大学
向け研修プログラム

あすチャレ! スクール



パラスポーツのデモンストレーション、体験、講話を通じ共生社会への気づきや学びの機会を提供するパラスポーツ体験型出前授業。

あすチャレ! ジュニアアカデミー



チガイが際立つパラアスリート講師から共生社会を学ぶワークショップ型授業。受講形式はオンライン、対面を選択可。

あすチャレ! Academy



パラアスリート講師とのコミュニケーションを通じ障がいに対するギモンを解決。コミュニケーション編、合理的配慮編などのプランがありオンライン、対面、ハイブリッドを選択可。

小・中・高・特別支援学校
向け教育プログラム

企業・団体・自治体・大学
向け研修プログラム

小・中・高・特別支援学校
向け教育プログラム

企業・団体・自治体・大学
向け研修プログラム

あすチャレ! 運動会



パラスポーツの魅力を「リアル」に体感してもらい、そこから生まれる「気づき」を提供するパラスポーツ運動会プログラム。

あすチャレ! メッセンジャー



スピーチトレーニングを経て、伝えるスキルを体得したパラリンピアンやパラアスリートの認定講師(メッセンジャー)による講演プログラム。

教育・研修プログラム「あすチャレ！」の特徴

- ✓講師はトレーニングを受けたパラアスリートを中心とした約80名
- ✓これまでに全国で約3,800回、40万人以上が参加(5プログラム合計 | 2016年4月~2023年3月末)
- ✓オンライン、対面、ハイブリッド型と選択できる受講形式



パラリンピック競技団体・アスリート支援



28のパラリンピック競技団体が活用している共同オフィス(東京都港区赤坂)



パラスポーツ専用体育館「日本財団パラアリーナ」(東京都品川区東八潮)

パラリンピック競技団体の基盤強化を目的とし、2015年11月にオープンしたパラリンピック競技団体・関係団体との**共同オフィス運営**、安定した団体運営に欠かせない事務局人件費、普及啓発費、広報・マーケティング費を中心とした**助成金制度**、そして事務局コスト削減とガバナンス強化を目的とした競技団体向け**シェアードサービスの提供**などを実施。

2018年6月からは、パラアスリートの練習環境整備を目的とした**パラスポーツ専用体育館を運営**しています。パラリンピック競技の日本代表チームやクラブチームの練習等で、延べ4万人を超えるパラアスリートが活用。*
2020年度はコロナ療養施設として利用のため休館

【メディアからのお問い合わせ先】

パラサポ PR 事務局(株)アンティル 担当:水口・松下・根本(緊急連絡先 根本:090-4811-8024)

TEL:03-6821-7863/ FAX:03-6685-5265/ MAIL:parasapo@vectorinc.co.jp